

自己紹介&タイ人高校生の1日

MISS SARISA SOTHORNGKRIANGKRAI (ニックネーム：ジャンプさん)

MISS PASIKA WICHAGONRAKUL (ニックネーム：グレースさん)

木宮会員よりご紹介

バンコク日本博 2025 (2025/8/29~31) 3日間開催し、過去最高の15万1千人動員しております。タイ全国高校生対抗日本クイズ王決定戦“J-Challenge”に国際奉仕委員会が協賛しています。優勝者2名と引率のボーナス先生にお越しいただきました。タイは皆さんニックネームで呼び合います。



バンコク日本博 2025
タイ全国高校生対抗日本クイズ王
決定戦“J-Challenge”優勝者
ジャンプさん(左) グレースさん(右)

1. 日本に興味を持ったきっかけと夢

私たちは現在16歳と17歳のタイの高校生です。日本に興味を持った最大のきっかけは、幼少期から親しんできたアニメやゲーム、音楽といったポップカルチャーでした。「ドラえもん」「名探偵コナン」「ONE PIECE」などの作品は、単なる娯楽を超え、日本の文化や価値観を学ぶ入り口となりました。特に「ぼっち・ぎ・ろっく！」に感銘を受けてエレキギターを始めたり、初音ミクや椎名林檎さんの曲を通じて日本の音楽の多様性に触れたり、日本の表現文化は私たちの人生に大きな影響を与えてきました。私たちには二つの大きな夢がありました。一つは日本を旅行すること、もう一つは交換留学生として日本で学ぶことです。今回、一つ目の夢を叶え、実際に日本を訪れることができました。

2. 日本で感じた魅力と驚き

実際に日本で生活してみて、まず感動したのは「四季」の美しさです。タイにははっきりとした四季がないため、季節ごとに町の雰囲気や食べ物、服装が変わる様子はとても新鮮です。特に、写真でしか見たことがなかった桜を自分の目で見られることを、今からとても楽しみにしています。

また、食文化の奥深さにも驚きました。同じ料理でも地域や店によって味が異なり、コンビニのお弁当やデザートも非常にクオリティが高いと感じます。さらに、街中のマンホールに地域ごとのデザインが施されていることには、日本人の美意識と郷土愛を感じ、一つのアートとして強い印象を抱きました。

一方で、日本独特の習慣に戸惑うこともありました。例えば、書類にサインではなく「ハンコ」を多用する習慣や、携帯電話の契約と銀行口座開設が互いを必要とする複雑な仕組みなどです。また、料理に後から調味料を足さないことがシェフへの礼儀とされる文化や、日曜日に多くの病院が休診であること、コンサートチケットが抽選制であることなどは、タイの常識とは大きく異なり、非常に興味深い発見でした。

3. タイの高校生の日常生活

私たちのタイでの生活は、日本とは異なる独自のサイクルがあります。朝は早く、5時半から6時頃には起

床します。学校では毎朝8時に国歌斉唱とお祈りの時間があり、これはタイ人にとって愛国心や規律を再確認する大切な習慣です。

校則は非常に厳格で、身だしなみチェックでは化粧や染髪、爪の長さなどが細かく確認されます。授業は午後4時頃まで続き、その後、女子生徒は社会貢献プロジェクト(ボランティア活動)を行い、男子生徒は軍事訓練(ROTC)を受けるのが一般的です。

放課後の楽しみは、友達とお喋りや「ソンテウ」と呼ばれる乗り合いバスでの帰宅です。ソンテウはトラックを改造したタイならではの便利な交通手段で、わずか10バーツ(約50円)ほどで利用できます。また、タイの高校生にとっても塾通いやカフェでの自習は一般的で、夜遅くまで努力する生徒も少なくありません。

4. 芸術への情熱と将来の展望

私たちは言語や美術、音楽といった芸術分野に強い関心を持っています。日本語の看板の文字の形や、漢字の成り立ち、音読み・訓読みの違いにさえも美しさや面白さを感じています。六本木の国立新美術館を訪れた際には、多くの日本人アーティストの作品に触れ、自分の創作活動への大きなインスピレーションを得ることができました。

将来は、タイで最も権威のあるチュラロンコン大学の文学部へ進学し、言語や文学、文化についてより深く学びたいと考えています。幼い頃に父とアニメを見ていた時間が、今では自分の進路を決定づけるほどの情熱へと繋がっています。

5. 結び

今回の日本滞在は、実際に自分の足で歩き、目で見ることしか得られない学びの連続でした。日本とタイ、それぞれの文化には違いもあれば共通点もあります。言葉が少しずつ聞き取れるようになる喜びや、新しい価値観に出会う刺激を糧に、これからも成長し続けていきたいです。私たちの発表を通じて、少しでもタイの若者の等身大の姿を知っていただければ幸いです。

